

平成 20 年度
広報研修講座 実施報告

平成 20 年 8 月



社団法人コンピュータソフトウェア協会

目次

・ 講座概要	2
・ 講師所感	3
・ 講座内容	5
・ 受講者アンケート集計結果	7
・ 受講者からの声	11
(参考) 平成 20 年度 広報研修講座アンケート	12

講座概要

1. 講座目的

新任広報担当者、これから広報実務を担当する者、広報の基礎知識を復習・確認したい者、を対象に、企業広報全般に関する基礎知識の習得を行い、広報担当者の育成を図る。

2. 講座内容

- ・社内情報の集め方（社内取材、情報の吸い上げ、発掘）
- ・リリースの書き方（テーマに基づく実践演習）
- ・取材への対応（取材の受け方、メディアとの関わり方）
- ・編集部信頼される広報、相手にされない広報

3. 開催日時

平成 20 年 7 月 10 日（木） 14:00～17:00

平成 20 年 7 月 11 日（金） 14:00～18:00

4. 会場

CSAJ 会議室

5. 受講者

12 名（内訳：CSAJ 会員 8 社 9 名、一般 2 社 3 名）

講師所感

磯部 元志 氏 (CSAJ 広報研究会 メンバー)
〔株式会社メディア・ソリューション 代表取締役〕

今回のセミナーでも、昨年と同様、ニュースリリースを実際に作成してもらう時間を設けました。提携話についての骨子をお話しし、リリースづくりに必要な質問を受け付け、翌日に提出してもらうというものです。今回は、提携の意義やメリットなどの質問も活発に行われ、添削についても、少ない赤入れ箇所ですみました。

広報担当者は、幅広い知識と社内外における人脈が必要です。その意味でいうと、新聞や雑誌の読み方が浅いようだと感じました。広報担当者にとって重要なクリッピングをしっかりと実行している人はごく僅か。これでは、メディアの人々と深くコミュニケーションすることはできません。

クリッピングは、新聞記者や雑誌編集者にとっても基本中の基本です。企業の場合、自社および業界についての記事クリッピングは、まさに社史を形成するひとつの要素です。クリッピングをして、関係各部に報告がてら赴けば、担当者から記事の評価を聞くことができるし、思わぬ業界情報が入手できるかも知れません。

セミナー参加を機に、基本に忠実に行動することを期待します。

佐藤 宏之 氏
〔株式会社メディア・ソリューション 取締役〕

広報業務は社内外への営業活動であることをご理解頂くために、多くの時間を割きました。

社内の業務連絡もメールが主体となり、媒体もデジタル化が進んでいますが、フェース to フェースのお付き合いがあつてのコミュニケーションです。記事を書いているのも記者であることに変わりはありません。

直接会って話して、ネットワークを作りながら、業務を進めることができない担当者に、広報の成功は導けないでしょう。

今回は広報担当者になられて日が浅い方が多くいらっしゃいましたので、足で稼ぐ広報の重要性、それを実感頂くための準備や方法などを具体的に伝授しました。

細かく大変な作業もありますが、この積み重ねが礎を築くと信じ、日々の業務に邁進して頂ければと願っています。皆さんに広報の現場でお会いできることを楽しみにしております。

講師所感

藤田 憲治 氏
〔日経パソコン 編集長〕

ここ 10～15 年、記者活動の中で大きく変わったことがあります。それは広報部との連絡手段です。10～15 年前、取材依頼も、問い合わせも、我々はほとんどを電話でお願いしていました。毎日のように電話をかけ、挨拶をし、親しくなり、そして広報担当者と信頼関係を築くことが我々の記者活動を円滑にしてくれました。ところが、今連絡に使うのはほとんどが電子メール。電子メールの方が時間を節約でき、お願いしたいことを効率が良く伝えることができるのです。

電子メールによって、業務の効率は高まりました。しかし、半面でメディアと広報の関係は希薄になったような気がします。発表会の連絡も、新製品のリリースも、すべてが機械的に送られ、取材の日程もすべてがメールのやり取りだけで決まります。そこに、人と人とのコミュニケーションはほとんど存在しません。そして、こういった関係が積み重なることで、企業の“顔”である広報部が、年を追うごとに我々から見えにくくなっているように感じるのです。

こういった状況の中、本講座において「編集部に信頼される広報、相手にされない広報」と題した講演をさせていただきました。難しい内容ではありません。実例を挙げ、「何よりも互いのコミュニケーションが大切」ということをお伝えしただけです。IT 化が進み、人間関係の温もりを感じるものが少なくなっている時代だからこそ、新任広報担当者を育成する目的で開かれた今回のような講座が、大きな意味を持つようになるのではないのでしょうか。

講座内容

1 日目

広報担当者の役割、位置づけ、活動概要について、説明を行った。また、リリースを作成する際の留意点やリリース作成方法等について、説明を行った。最後に、実際にリリースを作成する実践演習の課題を与えた。

主な内容（項目）は、以下の通り。

- ・ 広報 PR って？
- ・ 広報の役割
- ・ 広報と広聴
- ・ 広報の使命
- ・ 広報担当者の一日
- ・ 広報部の業務サイクル
- ・ 朝は作業
- ・ 昼は営業
- ・ 夜は活動
- ・ 広報担当者のスタンス
- ・ 広報担当者は
- ・ 対外広報活動の基礎
- ・ 広報担当者求められるスキル、センス
- ・ ニュースリリース作成・・・その前に
- ・ ニュースリリースとは
- ・ リリースが埋もれる！
- ・ ニュースリリースの作成
- ・ ニュースリリースの構成
- ・ 見出し
- ・ リード
- ・ ニュースリリースのポイント1
- ・ ニュースリリースのポイント2
- ・ ニュースリリースのポイント3
- ・ 必須項目
- ・ プレスリリースを発信する内容
- ・ 嫌われるリリース
- ・ リリースを書いてみよう
- ・ 名刺交換・受講者交流



2日目

広報としての社内外(メディア含む)との関わり方、情報の収集や情報の取り扱い方、取材時の留意点等について、説明を行った。また、メディアの位置づけについて、説明を行った。1日目の課題に対して添削を行い、ポイント、留意点などについて、説明を行った。

主な内容(項目)は、以下の通り。

- ・ 広報の課題
- ・ どう解決する？
- ・ 情報流通経路
- ・ 情報の一元化
- ・ 情報の流動化
- ・ 何を集めるか
- ・ どう集めるか
- ・ 何を伝えるか
- ・ どう伝えるか
- ・ 手段・ツール
- ・ 取材の申込み
- ・ 取材時の注意事項
- ・ 取材後の対応
- ・ 消費者は何を信用するか
- ・ メディアの変貌
- ・ メディアの位置づけ
- ・ 名刺交換・受講者交流

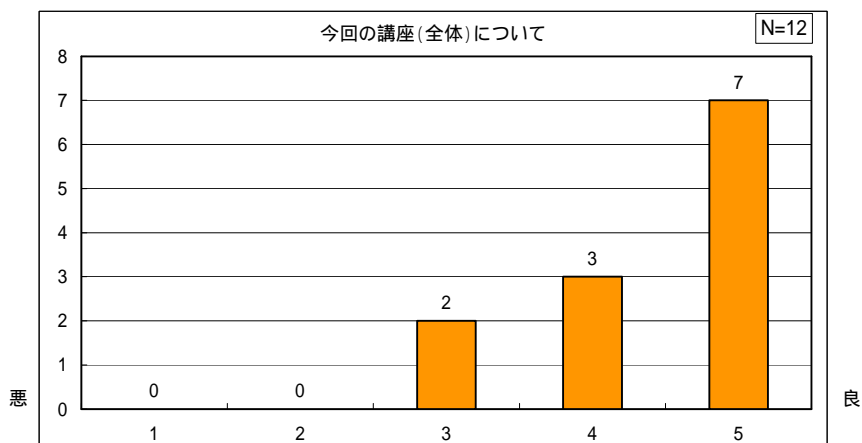


日経パソコン編集長の藤田氏より、「日経パソコン編集部の独断と偏見 良い広報と悪い広報」と題して、講演を行った。

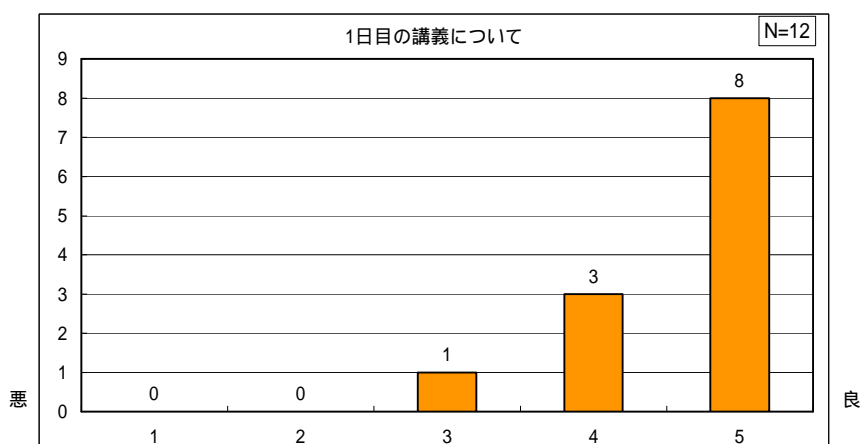
- ・ 名刺交換・受講者交流



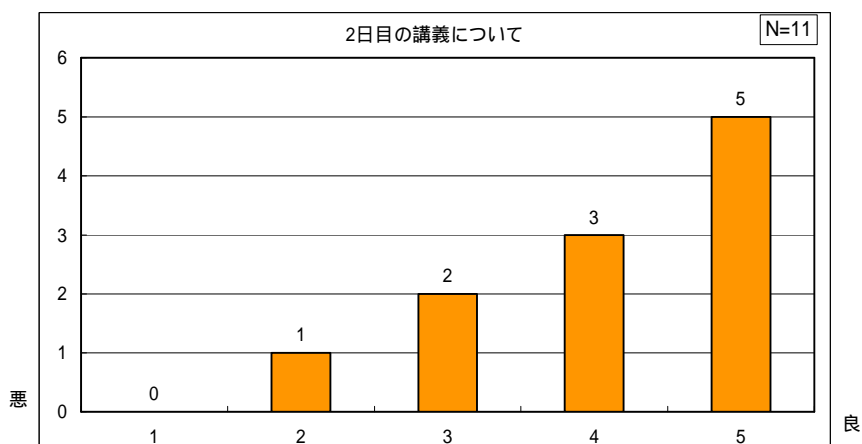
受講者アンケート集計結果



回答は、全て3以上、5は過半数の7名と、高い評価であった。

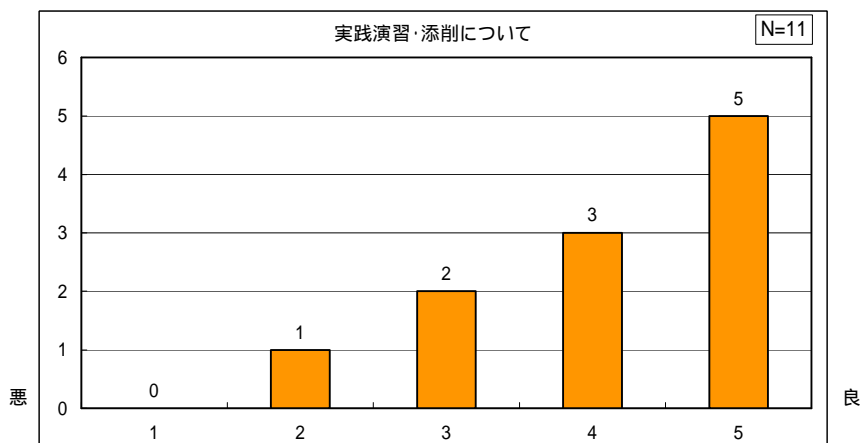


回答は、全て3以上、5は過半数の8名と、高い評価であった。

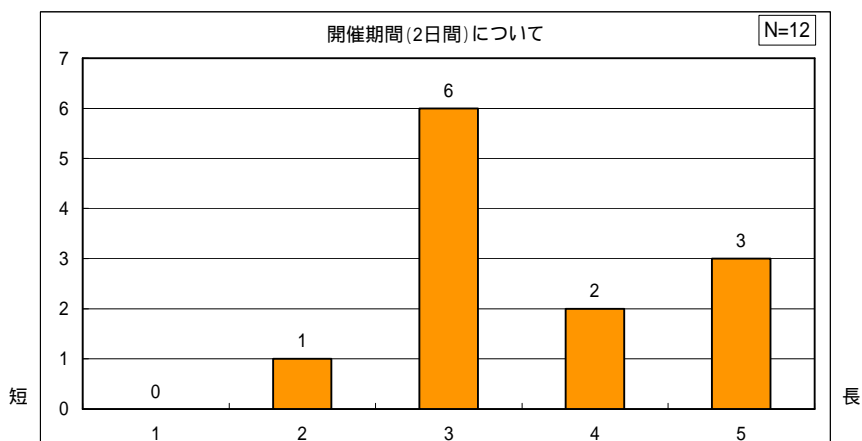


回答は、2から5まで分散しているが、4と5で過半数の8名と、概ね高い評価であった。

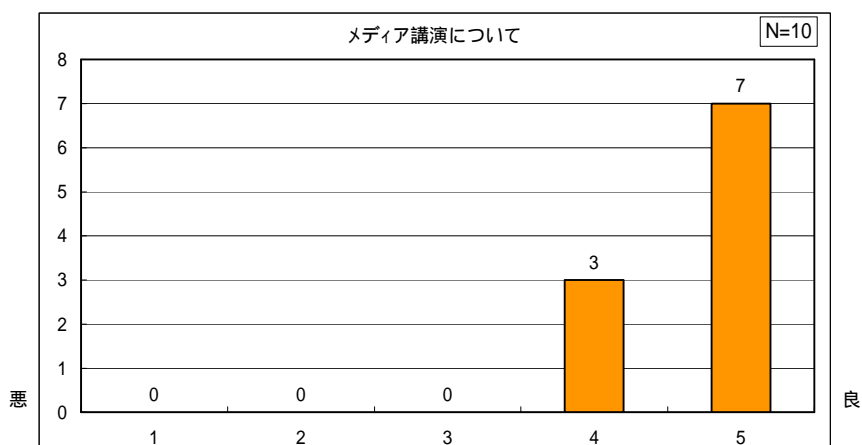
受講者アンケート集計結果



回答は、2から5まで分散しているが、4と5で過半数の8名と、概ね高い評価であった。

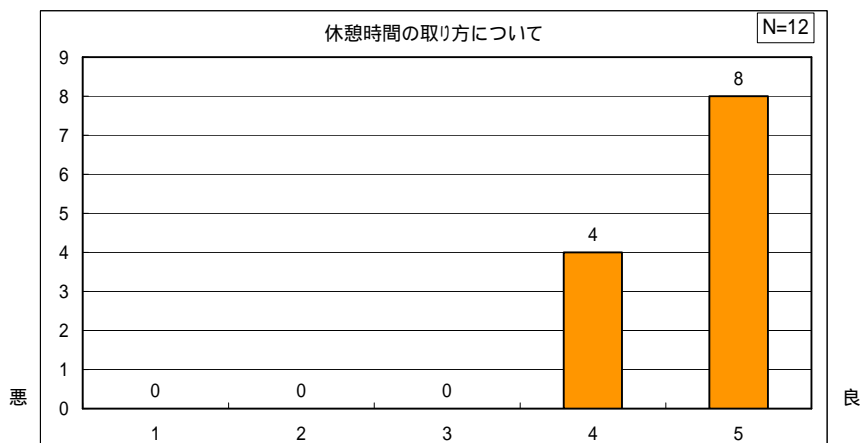


回答は、2から4に分散しており、4が2名、5が3名と、やや長いと感じていた。

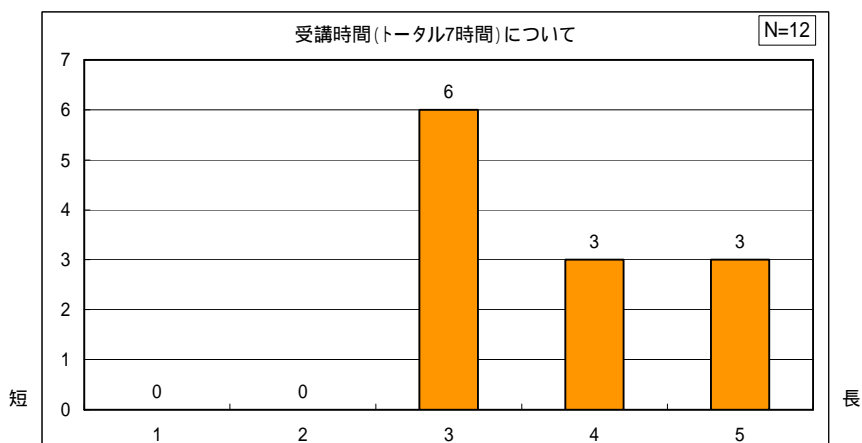


回答は、全て4以上、5は過半数の7名と、高い評価であった。

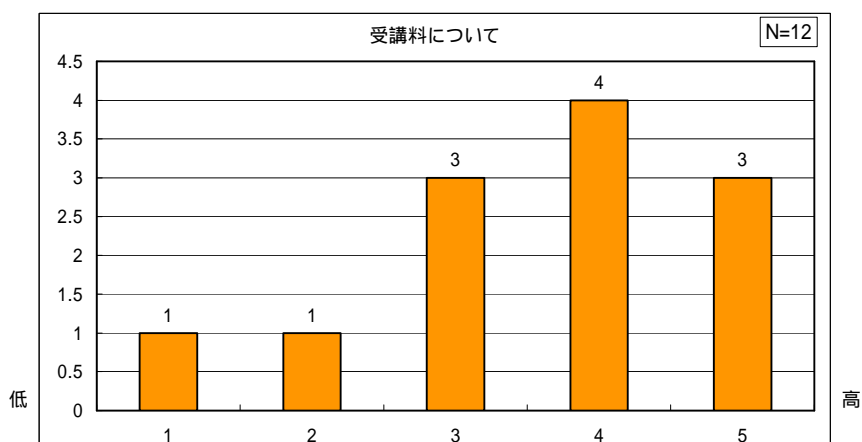
受講者アンケート集計結果



回答は、全て4以上であり、適正との評価であった。

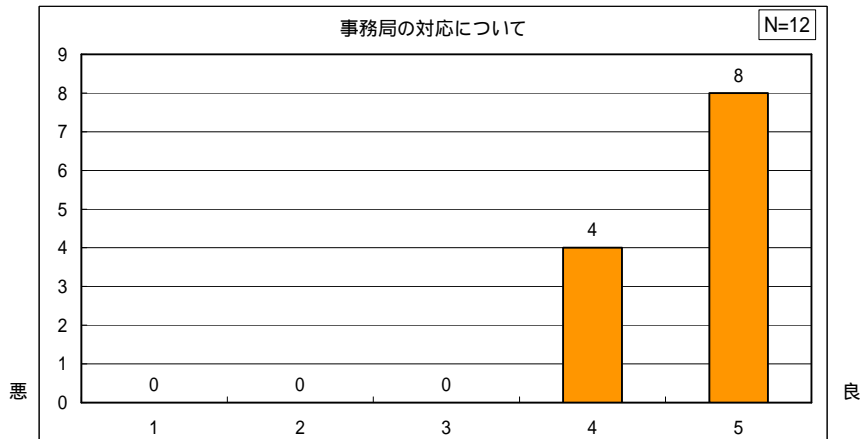


回答は、3から5に分散しており、4が3名、5が3名と、やや長いと感じていた。

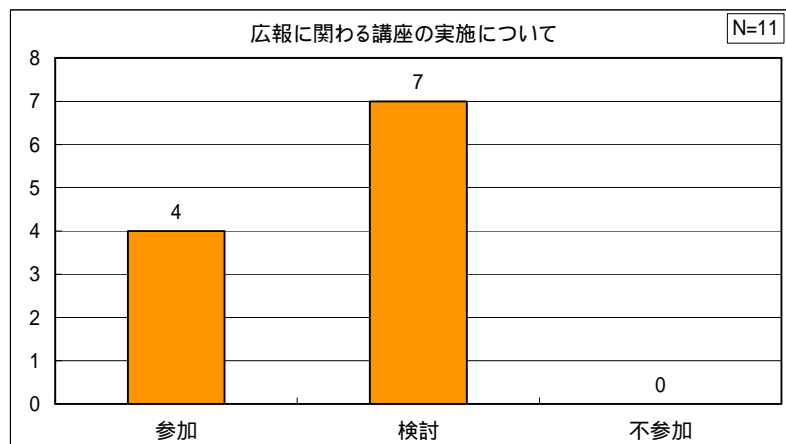


回答は、1から5に分散しており、4が4名、5が3名と、やや高いと感じていた。

受講者アンケート集計結果



回答は、全て4以上であり、適正との評価であった。



参加したいが4名、参加を検討するが7名であった。

受講者からの声

感想・所感

- ・適度な時間で、受講料で、とても分かりやすく、学ぶことが多かった。
- ・2日間で一気にノウハウが学べて良かった。
- ・広報として困っている部分、悩んでいる部分、全く予想していなかった部分も含めてアドバイスをいただき、とても参考になった。
- ・具体的な経験を伺えて、面白かった。
- ・ニュースクリップなどやっていないことが多く、また広聴という部分、社内に伝えるということが大事なのだなと思った。
- ・広報として、記者との対応の仕方など知っておくべき事を学べた。
- ・現在の広報（当社）のあり方について、自分が検討しなくてはと思った。
- ・まったくの初心者だったが、分かりやすい内容だった。
- ・使ってはいけない表現など知ることが出来て良かった。
- ・編集者の生の声、本音を聞くことができ、大変勉強になった。

ニーズ・要望

以下のニーズ・要望があった。

- ・同じような内容を重複して話されている事が多々あった。
- ・短時間で内容の濃いセミナーだとなお良い。

今後希望する講座

以下の講座ニーズがあった。

- ・話し方講座
- ・効果的なプロモーション方法
- ・リリースの書き方に特化した研修
- ・新任担当者向けの広報研修で、いくつかパターンを増やして欲しい。

平成 20 年度 広報研修講座アンケート

参考

今後の事務局運営の参考にさせていただくために、以下アンケートへご協力をお願いします。
 ・各設問の適合する番号に をお付けください。
 ・無記名式ですので、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せください。
 ・本アンケートは集計し、その結果を CSAJ 広報研究会や広報研修講座実施報告書等で使用させていただきます。

低・短・悪 ←	評価					→ 高・長・良	自由記入欄
今回の講座（全体）について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
1日目の講義について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
2日目の講義について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
実践演習・添削について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
メディア講演について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
開催期間（2日間）について							具体的な期間をご記入ください
(短)1	2	3	4	5(長)			
休憩時間の取り方について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			
受講時間（トータル7時間）について							具体的な時間をご記入ください
(短)1	2	3	4	5(長)			
受講料について							具体的な金額をご記入ください
(安)1	2	3	4	5(高)			
事務局の対応について							
(悪)1	2	3	4	5(良)			

今回の広報研修講座に対するご意見・ご感想を、ご記入ください。

今回の広報研修講座は新任担当者向けでしたが、よりステップアップした広報研修講座を企画した場合、参加したいですか

(参加したい ・ 検討する ・ 参加しない)

今後どのような講座をご希望ですか（いくつでも）

ご協力ありがとうございました

平成 20 年度 広報研修講座 実施報告書

平成 20 年 8 月 発行

発行 社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-4-2 秀和溜池ビル 4 階
TEL : 03-5157-0780 FAX : 03-5157-0781
URL : <http://www.csaj.jp/>

©2008 Computer Software Association of Japan